


■本資料のご利用にあたって(詳細は「利用条件」をご覧ください)

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

***** : 著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC : 著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

 : パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし : 上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

- I 複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
- II 上映
- III インターネット配信等の公衆送信
- IV 翻訳、編集、その他の変更
- V 本資料をもとに作成された二次的著作物についての I からIV

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学 Todai OCW 学術俯瞰講義
Copyright 2012, 羽田 正

The University of Tokyo / Todai OCW The Global Focus on Knowledge Lecture Series
Copyright 2012, Masashi Haneda

近代歴史学と世界史

羽田 正

東京大学東洋文化研究所

今日の講義

- * 過去と現代における過去の見方
- * 近代歴史学の成立と特徴
- * 近代歴史学の日本への導入

過去における世界各地の世界認識と 過去の見方

- * 古代ギリシア：ヘロドトス、トゥキディデス
 - * 一神教世界：聖書、クルアーン(コーラン)
 - * 中華世界：司馬遷、二十四史
 - * 南アジア：マハーバーラタ
 - * 日本列島：古事記、日本書紀
-
- * 佐藤正幸『歴史認識の時空』知泉書館、2004
 - * 同『世界史における時間』山川出版社、2009

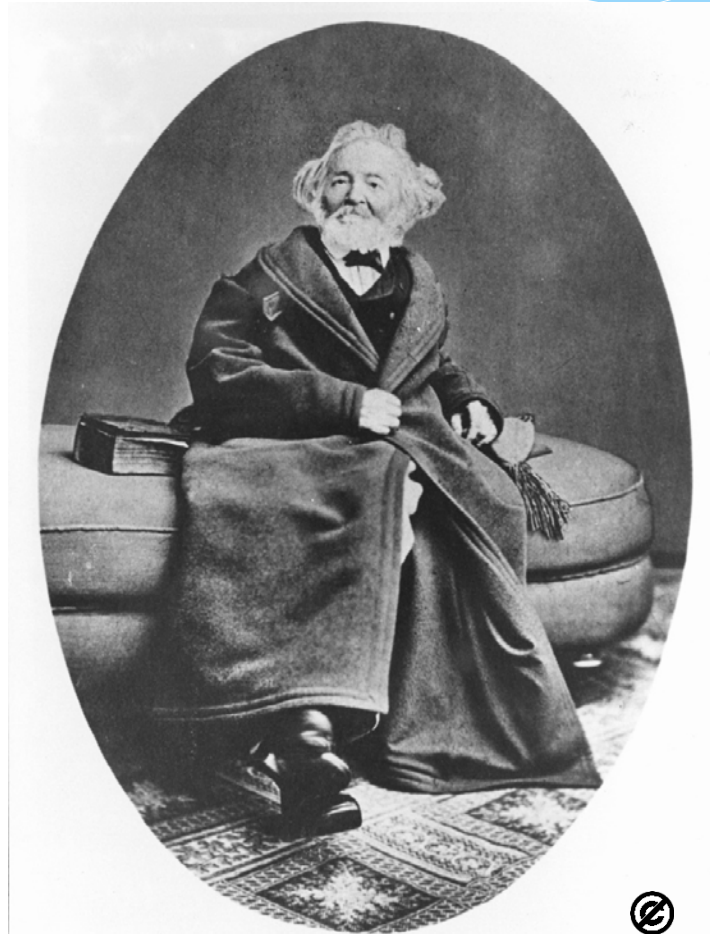
私たちの時代の過去の見方

- * 私たちの時代には、独自の過去の見方がある
- * これを支えるのが、近代歴史学
- * 歴史学者が、一定の手法に従って整理・解釈し、過去の姿を「事実」として提示する
 - * 厳密な史料批判に基づく実証の手続き
 - * 近代的な世界観が前提

近代歴史学の起源

- * 19世紀の北西ヨーロッパで成立
- * 成立の諸条件
 - * 啓蒙思想と理性の重視、科学的思考法
 - * 文献学(文献批判の方法)の発展
 - * 歴史文献としての『聖書』という見方
 - * キリスト教の相対化
 - * 進歩する人類社会という考え方
 - * 「ヨーロッパ」概念の熟成
 - * 国民国家の形成

Leopold von Ranke (1795-1886)



ランケの主な著作

- * 『1494年より1535年に至るローマ的およびゲルマン的諸民族の歴史』
- * 『近世歴史家批判』
- * 『ローマ教皇史』
- * 『ドイツ史6巻』『プロイセン史9巻』
- * 『フランス史』『英国史』
- * 『世界史概観』

Jules Michelet (1798-1874)



ミシュレの主な著作

- * 『世界史入門』
- * 『フランス史17巻』
- * 『フランス革命史7巻』
- * 『女』
- * 『海』
- * 『人類の聖書』

成立した近代歴史学の特徴

- * 国家単位の歴史叙述(または「ヨーロッパ」と「非ヨーロッパ」を単位とする) — 主語は、国または国民
- * 厳密な史料批判によって過去を「あるがままに(事実として) wie es eigentlich gewesen ist」とらえようとする
- * 進歩の概念の適用(文明、未開、野蛮という類型)
- * 文明の最先端を行く「ヨーロッパ」とそれを構成する諸国の過去が主たる研究対象(当時の世界観の投影)

近代歴史学の有用性

- * ある対象の過去の姿を、時間軸(時系列)に沿って実証的に整理・確定して示す
 - * 自分史、東京大学史、江戸の歴史、神奈川県史
 - * 日本の歴史、中国の歴史、ドイツの歴史、ヨーロッパの歴史、イスラーム世界の歴史など
- * **そのとき、その対象は実在すると意識される**
 - * 対象への帰属意識(アイデンティティ)の形成
 - * 国立大学に置かれるべき学問

文系諸学問の成立と歴史学

- * 19世紀以前からすでに存在した学問：法学、哲学、神学
- * 進歩し普遍性を持つ「ヨーロッパ」を理解するための学問：政治学、経済学、社会学、歴史学
- * 不変で特異な「非ヨーロッパ」を理解するための学問：東洋学、人類学
- * 自分たちを「ヨーロッパ人」と認識した人々の世界観に基づく体系化

現代まで続く学問の区分

- * University of Oxford (Cambridge)
 - * Faculty of Modern History (Historical Studies)
 - * Faculty of Oriental Studies (Asian and Middle Eastern Studies)
- * France
 - * Université de Paris IV (UFR Histoire)
 - * Université de Paris III (UFR Orient et Monde Arabe)
- * **世界史を考える場がない！**

近代歴史学の非ヨーロッパ地域への普及

- * 圧倒的な軍事力、経済力を背景とする北西ヨーロッパ諸国の他地域への進出
- * 非ヨーロッパ諸地域における「近代化」の試み
 - * 政治や社会の制度を採用（憲法、議会、学校など）
 - * 科学技術、学問の導入（殖産興業、軍事兵器、大学など）
- * すべての地域が進んで「近代化」を受け入れようとしたわけではないことに留意

日本における歴史叙述の伝統

- * 中国：『史記』以来の二十四史
- * 日本：『日本書紀』から『大日本史』まで
 - * 清朝考証学の手法を導入した厳密な文献考証
 - * 「国家史」の伝統
- * 1869年「修史の詔」史料編纂国史校正局設置
- * 1888年 帝大臨時編年史編纂掛設置
- * それ以前からの歴史叙述の伝統と近代歴史学の接続

明治日本における歴史学

- * 帝国大学設置、文科大学史学科(1887)
 - * ルードヴィヒ・リース(ランケ門下)が教授
- * 国史科設置(1889)「非ヨーロッパ」における最初の歴史学！
- * 京都帝大に東洋史学科設置(1907)他国にはない特徴
- * 東京帝大に東洋史学科設置(1910)

その後の日本の歴史学

- * 不変の研究体制
 - * 現在まで続く「日本史」「東洋史」「西洋史」学科
- * 世界史は、マルクス主義的歴史学の前提としては意識される。ただし、その前提自体が持つ問題性は問われず
- * 中等教育における変化
 - * 戦前：研究体制と一致
 - * 戦後：「日本史」と「世界史」
 - * ただし、文明や国ごとの歴史をたばねたものが「世界史」

羽田 正
『新しい世界史へー地球市民のための
構想』
岩波新書、2011年

http://www.iwanami.co.jp/hensyu/sin/sin_kkn/kkn1111/sin_k621.html

まとめと議論のテーマ

- * 近代歴史学の誕生とその意義、限界
- * あらためて、世界史とは何か？
- * 世界史はあなた方にとって必要か？必要だとすれば、なぜ？
- * 世界史理解の枠組みや叙述の方法は現状のままでよいのだろうか？よくないとすれば、どう変える？